

代々木健康友の会 第57回定期総会議案

一年間の活動のまとめ

コロナ感染が下火となり、代々木病院と友の会は地域まるごと健康づくりをかね、健康講座を2回実施し、健康まつりも再開となりました。

健康講座は、3月に「健やかな老後のために」と題して河邊院長が講演、105人が参加、健康食の試食や腰痛予防体操のミニ講座も好評でした。

7月には「ひざ・腰痛の予防と対策」にも会場いっぱいの参加者で、絶え間なく質問がだされ、関心の高さに驚きです。また、要望の強かった腰痛予防体操をリハビリテーション部との共同で実施しました。

昨年9月から院内で再開したころばん体操は好評で、毎回参加者が増え48人が登録されています。病院の看護師が受付後に血圧測定などの健康チェックをおこない、亀田由紀子運動指導士によるストレッチや脳トレで楽しく元気に毎週実施しています。

5月開催した健康まつりは、賑わいが戻り大盛況でした。メイン企画は商

店会長をゲストコメントーターとして「地域の困ったに連携して、健康なまちづくり」をテーマにシンポジウムをおこないました。

夏の鳩森神社の千駄ヶ谷盆おどり大会では90人が健康チェックを受けました。鳩森神社例大祭で病院が休憩所として冷たい飲みものなどで「おもてなし」しました。社教館まつりでは模擬店・五目ごはんや豚汁を200食販売、収益は能登半島地震の被災地支援に寄付しました。鳩森小学校でおこなわれた千駄ヶ谷まつりで多くの参加者が健康チェックに並びました。

屋外での健康づくりは、歩きカメラが毎月開催、43回を数え「ブログ・歩きカメラ」は「コメント」が好評です。ヨーガ教室は毎週実施、班会でサブ

リメント・紅麴問題を学びました、布遊び、俳句の会は会場を院内に移しての実施で参加者も増えています。

8年目となる病院への送迎活動は、年間88日、延べ152人の方を送迎し、訪問リハの紹介などで増加傾向にあります。

熱中症予防を訴えた地域訪問は、「危険な暑さ」のなか取り組まれ、地域の方々の対話の大事さを痛感、広報力も運行させ、渋谷区との懇談では見守り活動の強化や低所得者のクーラー電気代補助などを提案してきました。

秋の仲間増やし月間では、67名の新しい会員さんを迎えました。初めて大腸がんの無料検査を実施、地域の方々にすすめ、ころばん体操の参加者やサークル参加者など150名に検査キットを配布しました。

専門部活動では、組織部がコロナ後数年ぶりに若葉・大京町、広尾地域で班会を開催しました。病院近隣で散策をしながらストレッチやおしゃべりする散策サークルに取り組みました。

社保平和レク部では、名所めぐりの歩こう会や歴史探訪ではちひろ美術館に出かけました。また、戦争を語り継ぐ会を久々に開催、戦争帰還兵のPTSD(心的外傷後ストレス障害)について学びました。

教宣部会は、「くらしと健康・友の会ページ」で地域との共同の取り組み

を掲載、地域の人たちからの投稿もありました。今年の原水禁世界大会に、友の会は26歳の青年を代表として派遣することができました。病院の4人の代表とともに、今後の平和運動をけん引してもらえらるものと確信します。

共同墓地は、今期20名の新規加入者があり会員数380名です。

2024年1月1日に発生した能登半島地震は甚大な被害となりました。友の会は病院とともに1月9日から15回、千駄ヶ谷駅で被災者支援募金を訴えました。

被災地では、いまなお支援が必要とされる高齢者が在宅などで苦難を強いられています。迅速な復旧、復興、被災者の生活支援が求められています。

8月14日、岸田首相が、自民党総裁選への出馬を断念、国民の怒りの広がり

に追い詰められての退陣表明となりました。組織的犯罪である裏金問題は、自民党の本性があらわになりました。その反省もなく、自民党内の政権交代の主張もなくなり、自民党の政権たらいまわしではなにも変わりません。

2024年度の診療報酬、介護報酬の改定で、報酬の引き下げが医療機関、介護事業所の経営状況はかつてない困難に直面しています。医療・介護従事者が安心して働き、患者・利用者が十分なケアが受けられるよう求めます。

ロシアのウクライナ侵略やイスラエルのガザ攻撃が続くことで、核大国が核の威嚇や核戦力の増強に厳しい批判の声があがっています。「核抑止論」の克服が急務となっており、日本政府が「核の傘」への依存をあらため、一刻も早く核兵器禁止条約に参加すべきであり、廃絶へ向けた運動をさらに発展させていくことが求められています。

松田のめいへの情勢

2024年1月1日に発生した能登半島地震は甚大な被害となりました。友の会は病院とともに1月9日から15回、千駄ヶ谷駅で被災者支援募金を訴えました。

被災地では、いまなお支援が必要とされる高齢者が在宅などで苦難を強いられています。迅速な復旧、復興、被災者の生活支援が求められています。

7月7日投票で都知事選挙が行われました。代々木健康友の会は都知事選挙で市民と野党の共闘候補の連帯を応援してたたかいました。

この都政は、暮らしに対する支援が薄く、もっぱら大企業のための大規模な再開発フッシュです。その典型がたぐさんの樹木を切って超高層ビルを建てる神宮外苑再開発です。私たちが「神宮の森を守ろう」と訴えてきました。残念ながら、小池知事の3選となりましたが、今後も、福祉、暮らし第一の都政をめざして全力をあげます。

自民党総裁選後、総選挙の実施が濃厚です。友の会は、平和、いのちと暮らしが最優先される社会への転換を求めてきました。いまこそ、政治を変えるときです。安心して住み続けられる社会をめざして全力を上げます。

会員の高齢化に伴い、友の会活動のいっそうの発展が求められています。地域訪問のなかで、一人暮らしの高齢者が増えていること、別居家族の通い介護などを目の当たりにして、見守りの困難さを実感し、大事な課題と痛感しました。

日常的な声掛け運動や病院、地域包括支援センターなどとの連携をよめ、誰ひとり取り残さないための活動をすすめます。具体的には、①病院との共同で、健康講座は年3回開催します。そのなかで、声掛け運動をすすめます。②ころばん体操は毎週の開催で、手軽な健康づくりとして継続します。③地域の班会、おしゃべり会を交流の場であり、大事な見守り活動と位置づけ取り組みます。④地域との共同を強め、「地域まるごと健康づくり」を前にすすめます。さらに、通院困難な患者が増えている中で送迎活動の強化を図ります。また、大腸がん無料検診を地域に広め、健康づくりをすすめます。

これらの活動を、友の会の仲間増やしの活動に結び付けていきます。専門部活動では、組織部がこれらの活動をけん引し、散策サークルなどの交流の場を作ります。社保平和文化レク部は、いのちとくらしを守るため、「戦争する国づくり」許さない！憲法を守る！の平和の課題に取り組みます。また、会員の要望に沿って歩こう会や歴史探訪を企画します。また、「軍拡より社会保障を！医療・介護の充実を求め運動をつづけま

歩きカメラ、俳句の会、布遊びなどの要求にあったサークル活動をすすめます。毎月発行している「くらしと健康・友の会ページ」で運動を促進します。引き続き、地域との共同を強め、鳩森神社盆踊り、例大祭、社教館まつりなどに積極的に参加します。あらゆる活動で病院との共同を強め、強い大きな友の会への前進をめざします。

今後の友の会活動

会員の高齢化に伴い、友の会活動のいっそうの発展が求められています。地域訪問のなかで、一人暮らしの高齢者が増えていること、別居家族の通い介護などを目の当たりにして、見守りの困難さを実感し、大事な課題と痛感しました。



健康講座で河邊院長が講演



毎週の「ころばん体操」で元気に！



病院での健康まつりに大勢の人たちが集まる